

## 第4学年 外国語活動学習指導案

日 時 令和3年11月18日(木) 公開授業①

児 童 4年1組 男21名 女16名 計37名

指導者 刈谷 晋 (HRT)

菅原 敬悦 (特別支援)

授業構想の視点 教科等横断的な視点 ICTの有効な活用

### 1 単元名 Unit8 This is my favorite place. (Let's Try! 2)

### 2 単元について

#### (1) 児童観

本学級の児童はこれまでに、天気や曜日、時間のたずね方や have を用いた表現等について慣れ親しんできた。もっと上手に言えるようになりたい、いろいろな言い方を覚えたい、という高い意欲をもっている児童が多い。

これまでの活動を通して、既習の表現やジェスチャーを用いて自分の思いや考えを何とか伝え合おうとする力が身に付いてきている。また、たくさんの友達と関わり合うことを通して、相手意識をもった活動をできるようになってきている。

#### (2) 教材観

本単元は、学校内の教室名の言い方や道案内をする際の言い方を用いて活動を行う。学校は児童にとって身近な場所であるので、必要感をもって活動に臨むことができると考える。また、道案内をするために最低限必要な表現 (Go straight./ Turn [right/left]./ Stop.) の言い方を知ること、実生活においても「使ってみよう！」という思いをもつと考える。

#### (3) 指導観

本単元のゴールとして「Daito ミステリーツアーをしよう！」を設定した。十分に慣れ親しんだ表現を用いて校内道案内ゲームを行う。「道案内をするグループ」と「案内してもらおうグループ」に分かれて活動を行う。道案内をする表現を使って指示を出し、それに従って該当の教室を目指す (Microsoft Teams 活用)。慣れ親しんだ表現を駆使しなければゲームが成り立たないという点から、単元全体の活動に必然性をもてるようにする。また、タブレットを活用するという点においても児童は意欲的に活動を行うであろう。

本単元の活動では、1 単位時間で扱う表現を精選して無理なく学習を進められるようにしていく。第1時では校内の教室名の言い方、第2時では道案内をするための言い方を扱う。方位についても触れ、理科や社会科との関連を図る。それぞれの時間で各表現に十分に慣れ親しめるようにする。第3時では前時までに慣れ親しんだ表現を組み合わせ、多目的ホール内で道案内をする活動を行う。その際、目的地を国旗にすることによって社会科との関連を図る。第4時では、校舎全体を使って道案内「Daito ミステリーツアー」を行う。スモールステップで活動を行うことで、「言えるようになった、友達の言いたいことが分かった」という実感をもてるようにしていきたい。

### 3 単元の目標

- ・友達と学校内を道案内し合う活動を通して、教室名や道案内をする言い方に慣れ親しむ。

### 4 関連する学習指導要領における領域別目標

領域	学習指導要領における領域別目標
話すこと [やり取り]	ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。

### 5 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと [やり取り]	<p>&lt;知識&gt; 校内の教室名を表す語や、 Go straight. / Turn [right/left]. / Stop.の表現について理解している。</p> <p>&lt;技能&gt; 相手の行きたいところについて、校内の教室名を表す語や、 Go straight. / Turn [right/left]. / Stop.を用いて、行き方を伝え合う技能を身に付けている。</p>	<p>友達に道案内をするために、目的の場所までの行き方について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。</p>	<p>友達に道案内をするために、目的の場所までの行き方について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとしている。</p>

## 6 単元指導計画（全4時間）

単元のゴール

Daito ミステリーツアーをしよう！

話すこと【やり取り】で評価

第4時 ◎慣れ親しんだ表現を用いて、校内で道案内を行う。

- ・前時までに慣れ親しんだ様々な言い方を用いて校内での道案内（Daito ミステリーツアー）を行う。
- ・本Unitの活動を通しての自身の変容等について振り返る。
- ・本Unitの活動が、実生活のどのような場面で活用できそうかを話し合う。

表現：本Unitで前時までに扱ったもの

〔手立て3〕本Unitでの自分の成長を実感するために、活動の様子を動画や写真で振り返ることができるようにする。

【思・判・表】友達に道案内をするために、目的の場所までの行き方について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。

【態度】友達に道案内をするために、目的の場所までの行き方について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとしている。

第3時（本時） ◎慣れ親しんだ表現を用いて、道案内を行う。

- ・前時までに慣れ親しんだ様々な言い方を用いてやり取りを行う。
- ・次時に向けて、どのようなことに気をつけてやり取りをすればいいか話し合う。

表現：本Unitで前時までに扱ったもの

〔手立て2〕より良いやり取りの仕方を共有するために、モデルとなるやり取りの様子を撮影・提示することで良さを話し合えるようにする。

【思・判・表】友達に道案内をするために、目的の場所までの行き方について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。

【態度】友達に道案内をするために、目的の場所までの行き方について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとしている。

第2時 ◎道案内をするための言い方に慣れ親しむ。

- ・道案内をするための言い方を知る。
- ・道案内をするための言い方を用いて簡単なやり取りを行う。

表現：Go straight./Turn [right/left]./Stop. 語彙：教室名、方角、方向

〔手立て2〕「言えた」と実感できるようにするために、ALTとのやり取りやフラッシュ教材等を活用して繰り返し発音をする場を設定する。

【知・技】校内の教室名を表す語や、Go straight. / Turn [right/ left]. / Stop.の表現について理解している。相手の行きたいところについて、校内の教室名を表す語や、Go straight. / Turn [right/ left]. / Stop.を用いて、行き方を伝え合う技能を身に付けている。

第1時 ◎教室名の言い方に慣れ親しむ。

- ・「友達と、Daito ミステリーツアーをする」という単元のゴールを確認する。  
（教師によるデモンストレーション）

- ・学校の教室名の言い方を知る。
- ・自分の好きな校内の場所について交流する。

表現：I like ~./ Why? 語彙：教室名

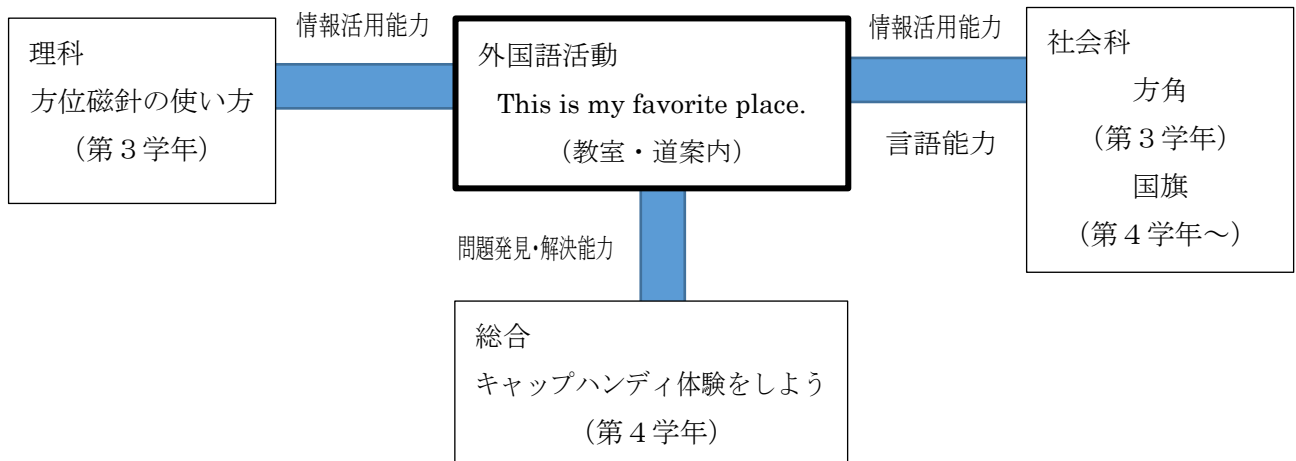
〔手立て1〕活動への意欲を高めるために、教師によるデモンストレーションを提示することでゴールのイメージをもつことができるようにする。

本Unitで身に付けさせたい、高めたい力

慣れ親しんだ表現を生かして友達とやり取りする力

## 7 授業構想の視点

### (1) 教科等横断的な視点



### (2) ICTの効果的な活用

- ・新出単語・表現カードをフラッシュ型教材として提示することで、テンポよく発音練習ができるようにする。
- ・タブレット端末で児童同士のやり取りを撮影し提示することで、よりよい伝え合い方を共通理解できるようにする。
- ・単元のゴールである「Daito ミステリーツアー」を、タブレットを用いて校舎内全体で行うことで、活動に臨場感をもてるようにするとともに、より分かりやすく伝える方法を思考できるようにする。

## 8 本時の指導

### (1) 目標

教室名の言い方や道案内をするための言い方など、慣れ親しんだ表現を用いて、道案内を行う。

### (2) 指導にあたって

- [手立て1]・本時の活動を次時に生かすことができるようにするために、どんなことに気を付けて道案内を行えば良さそうかを話し合えるようにする。
- [手立て2]・より良いやり取りの仕方を共有するために、モデルとなるやり取りの様子を撮影・提示することで良さを話し合えるようにする。
- [手立て3]・自分の活動を具体的に振り返ることができるようにするために、本時の活動の様子を写真で提示する。

(3) 展開 (3/4時間)

段階	児童の活動	教師の働きかけ ◎評価〈方法〉〔手立て〕	準備物
導入  10分	1 Greeting ・全体で挨拶をする。 Hello, ~. How are you?  2 Small talk ・友達と好きな教室とその理由を伝え合う。  3 Chants ・ジェスチャーをつけながらリズムに乗って発音する。	・全体で挨拶をし、今の気分を確認する。  ・最初に HRT と児童でデモンストレーションを行い活動の内容を確認する。  ・児童の実態に合わせてテンポを変える。	・リズムボックス ・フラッシュ教材 (自作)
	Unit goal Daito ミステリーツアーをしよう！		
Today' s goal ミニ・ミステリーツアーをしよう！		・本時の学習の姿勢の重点を確認する。 ( ㊦ ㊧ ㊨ ㊩ ㊪ )	
展開  25分	4 Activity 1 ○ミニ・ミステリーツアー1 ・2人組で行う。片方が指示を出してもう1人を道案内する。指示を出す側がカードを引き、目的地を決める (相手には教えない)。机間を道と見立て、目的地まで誘導する。他のペアと鉢合わせた場合、じゃんけんをする。負けた場合は別のルートを選択する。たどり着いたら “Goal!” という。役割を交代して続ける。	・HRT と児童でデモンストレーションを行い、ゲームの仕方を確認する。 ・児童の理解度によっては児童同士でのデモンストレーションを行い、ルールを確認する。 ・言い方に自信のない場合は、担任に声をかけていいことを伝える。 ・中間指導を行い、お互いのやり取りの良さや改善点に気付くことができるようにする。 ・より良いやり取りの仕方を共有するために、モデルとなるやり取りの様子を撮影・提示することで良さを話し合えるようにする。〔手立て2〕	・教室写真 ・教師用タブレット
	5 Activity 2 ○ミニ・ミステリーツアー2 ・Activity 1 と同じルールで行う。目的地を各国の国旗とする。	・どこの国旗か分からない場合は、タブレット (ブリタニカスクールエディション) を活用して調べていいことを伝える。 ・国旗カードの裏に答えを書いておき、ゴール後に正解かどうかを確認するよう促す。 ◎友達に道案内をするために、目的の場所までの行き方について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。〈行動観察・振り返りシート〉	・国旗カード ・児童用タブレット

終 末  10 分	6 Reflection <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の活動の振り返りをシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の活動を具体的に振り返ることができるようにするために、本時の活動の様子を写真で提示する。〔手立て3〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Let's Try! シート</li> <li>写真</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>次時の活動について話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の活動を次時に生かすことができるようにするために、どんなことに気を付けて道案内を行えば良さそうかを話し合えるようにする。〔手立て1〕</li> </ul>	
	7 Closing	<ul style="list-style-type: none"> <li>次時の学習の内容を確認する。</li> </ul>	

うまく道案内をすることができてよかった。次は学校全体でミステリーツアーをするので、正しく道案内できるようにがんばりたい。